

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教 員一人 あたりの 在籍学 生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち	助手			
							理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				
理学療法 学科・作 業療法学 科	0人	0人	7人	0人	7人	6人	7人	0人	人	人	
課程	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
計	0人	0人	7人	0人	7人	6人	7人	0人	人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当コマ数	担当職員		
				氏名	職名	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	心理学	15	谷口 慶子	兼任	
		哲学	15	種村 亮司	兼任	
		教育学	15	山下 みどり	兼任	
		社会福祉学	15	重久 亮一	兼任	
		生物学	15	般若 正道	兼任	
		物理学	15	立石 洋	専任	
		統計学	10	田川 知恵子	専任	
		保健・体育Ⅰ	10	三原 茉依	兼任	
		保健・体育Ⅱ	10	三原 茉依	兼任	
		音楽	10	柏木 祐希	兼任	
		社会学	15	山下 みどり	兼任	
		臨床IT	10	田川 知恵子/藤村 勇人	専任/専任	
		一般英語	15	上村 真之	兼任	
		国文学	15	大滝 晶子	兼任	
	小計	185				
専門基礎分野	体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	田川 知恵子/立石 洋/寺師 拓斗/藤村 勇人	専任/専任/専任/専任	
		解剖学Ⅱ	30	田川 知恵子/立石 洋/寺師 拓斗/藤村 勇人	専任/専任/専任/専任	
		生理学Ⅰ	30	田川 知恵子/立石 洋/寺師 拓斗/藤村 勇人	専任/専任/専任/専任	
		生理学Ⅱ	30	田川 知恵子/立石 洋/寺師 拓斗/藤村 勇人	専任/専任/専任/専任	
		運動学Ⅰ	20	吉野 慶子	専任	
		運動学Ⅱ	20	吉野 慶子	専任	
		人間発達学	10	田川 知恵子	専任	
		臨床心理学	15	俣野田 大志	兼任	
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	15	吉田 愛知	兼任
			一般臨床医学	30	立石 洋/福島 洋子/上野 多吉子	専任/兼任/兼任
	整形外科Ⅰ		15	寺師 拓斗	専任	
	整形外科Ⅱ		15	藤村 勇人	専任	
	内科学		20	富宿 明子	兼任	
	老年期学Ⅰ		10	岩森 俊	兼任	
	老年期学Ⅱ		10	岩森 俊	兼任	
	小児科学		15	川島 清美	兼任	
	神経内科学Ⅰ		10	中森 健二	専任	
	神経内科学Ⅱ		10	中森 健二	専任	
	精神医学Ⅰ	10	俣野田 大志	兼任		
	精神医学Ⅱ	10	俣野田 大志	兼任		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論Ⅰ	10	中森 健二	専任	
		リハビリテーション概論Ⅱ	10	中森 健二	専任	
		リハビリテーション医学	20	藤村 勇人	専任	
	小計	395				
P T 専門	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	15	寺師 拓斗	専任	
		理学療法概論Ⅱ	15	立石 洋	専任	
		臨床運動学Ⅰ	10	吉野 慶子	専任	
		臨床運動学Ⅱ	10	吉野 慶子	専任	
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	田川 知恵子	専任	
		理学療法評価学	20	藤村 勇人	専任	
	理学療法評価学	理学療法評価法実習	30	寺師 拓斗	専任	
		日常生活活動	15	原田 電治	兼任	
		日常生活活動実習	15	原田 電治	兼任	
		運動療法Ⅰ	15	吉野 慶子/藤村 勇人	専任/専任	
	理学療法治療学	運動療法Ⅱ	15	中森 健二	専任	
		運動療法実習Ⅰ	15	吉野 慶子/藤村 勇人	専任/専任	
		運動療法実習Ⅱ	15	寺師 拓斗	専任	
		物理療法	10	立石 洋	専任	
		物理療法実習	15	立石 洋	専任	
		生活環境論	10	岩森 俊	兼任	
		義肢器具Ⅰ	15	吉野 慶子	専任	
		義肢器具Ⅱ	15	吉野 慶子	専任	
		疾患別理学療法Ⅰ	15	中森 健二	専任	
		疾患別理学療法Ⅱ	15	中森 健二	専任	
		疾患別理学療法Ⅲ	15	寺師 拓斗	専任	
		疾患別理学療法Ⅳ	15	藤村 勇人	専任	
		疾患別理学療法Ⅴ	10	竹内 直人	兼任	
		疾患別理学療法Ⅵ	10	田川 知恵子	専任	
		疾患別理学療法Ⅶ	15	立石 洋	専任	
	疾患別理学療法Ⅷ	10	覆並 剛一	兼任		
	疾患別理学療法Ⅷ	10	覆並 剛一	兼任		
	疾患別理学療法Ⅸ	10	覆並 剛一	兼任		
	研究方法論	10	寺師 拓斗	専任		
	地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	15	田川 知恵子	専任	
		地域理学療法学Ⅱ	15	田川 知恵子	専任	
	臨床理学療法学(基礎)	総合特論Ⅰ	30	吉野 慶子	専任	
		総合特論Ⅱ	30	吉野 慶子	専任	
臨床理学療法学(専門)	見学実習	20	寺師 拓斗	専任		
	評価実習Ⅰ	40	藤村 勇人	専任		
	評価実習Ⅱ	80	藤村 勇人	専任		
	総合臨床実習Ⅰ	160	吉野 慶子	兼任		
	総合臨床実習Ⅱ	160	吉野 慶子	兼任		
	小計	945				
	合計	1525				

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習	1 年次後期	理学療法評価法	1 年次前期
評価実習 I	2 年次前期	理学療法評価法実習	1 年次前期
評価実習 II	2 年次後期	運動療法 I ,運動療法実習 I	2 年次前期
地域理学療法実習	2 年次後期	地域理学療法 I II	2 年次前期, 後期
総合臨床実習 I	3 年次前期	疾患別理学療法 I ～IX,運動療法, 運動療法実習	2 年次前期, 後期
総合臨床実習 II	3 年次前期	疾患別理学療法 I ～IX,運動療法, 運動療法実習	2 年次前期, 後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校評価委員会
委員名(委員長)	神村 慎二
組織の開催頻度	年2回
組織の取り組み内容	学校全体から実施する自己点検・評価
	各学科が行う自己点検・評価の把握
	内部質保証に対する必要な取り組み
自己点検・評価結果の公表	学校ホームページ

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	
	委員構成等	
	改善の仕組みの実際	

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価の結果に基づく改善活動を支援する体制作りとして、問題点の明確化と改善の取り組みを、各組織長や学科長が半期ごとに進捗を確認する機会を設け、「学校評価委員会」に報告することで継続して取り組むことが可能となる。